



5. 座右の銘

為せば成る、為さねば成らない何事も

「為せば成る、成さねば成らない何事も」は、小野穎子氏が好きな名言である。どんなことでも強い意志を持ってやれば、必ず成就するという意味である。

この名言は、江戸時代中期の第9代米沢藩主上杉鷹山^{ようざん}  の「生せは生る 成さねは生らぬ 何事も 生らぬは人の 生さぬ生けり」、および戦国時代の甲斐の守護大名であった武田信玄  の「為せば成る 為さねば成らぬ業を 成らぬと捨てる 人のはかなさ」に源がある。

人生を振り返ると、強い精神力を持って、何事も前向きな姿勢でとり組んできた小野氏。人に恵まれながらも、好きな絵描きをライフワークとし、「為せば成る、成さねば成らない何事も」の精神であきらめず人生を設計してきた。ただ、この人生設計を描くうえで欠かせないものがあった。それは、母子家庭を支援してくれた多くの人びとの存在である。この経験から、小野氏は、2005年度より今治市の民生委員を務めている。少しでも社会に恩返しをしたいという感謝の気持ちからである。そして、10年以上におよぶ民生委員としての功績が評価され、2015年10月6日に今治市から表彰を受けた。人生設計のシナリオにおいて、最後の奉仕である。


「難しい思想はわたしにはない」と言うが、感謝する気持ちを忘れず、小野氏にはやはりみずからを奮い立たせる座右の銘があった。この言葉に支えられながら、今治初の女性タオル・デザイナーはいまも生涯現役で絵を描きつづけている。

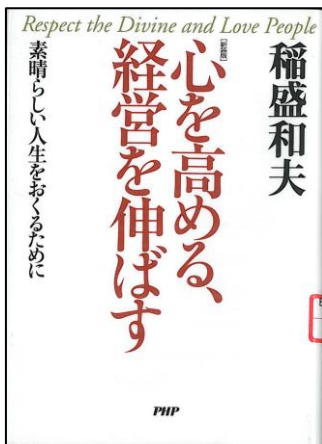
6. 若い世代に向けてのメッセージ

何事も肥やしにしろ！

人生には大きな波や小さな波が幾度となく訪れる。しかし、その波をすべて肥やしにしていくことで人生は開ける。小野氏の若者へのメッセージはシンプルだが潔い。さきほどの座右の銘と合わせて、若い世代に向けた小野氏からのメッセージである。

7. お薦めの本について

小野氏が最近読んだ本で「この人すごいな」と印象に残ったのが、**稲盛和夫**  著『心をもてる、経営を伸ばす～素晴らしい人生をおくるために～』（PHP 研究所、2004年）である。同書は、創業からわずか30年で世界的企業へと成長した京セラの創業者稲盛和夫氏が著した本であり、稲盛氏の仕事や生き方に対する哲学が凝縮されている。



稲盛和夫『心をもてる、経営を伸ばす』PHP 研究所、2004年（今治市立図書館所蔵）

「美術手帖」2014年2月号、美術出版社、2014年1月

「美術の窓」No.370（2014年7月号）、生活の友社、2014年6月

その他、仕事柄、美術関係の本や雑誌を愛読している。そのなかでも「美術手帖」（美術出版ホールディングス）や「美術の窓」（生活の友社）は、昔から小野氏の愛読書である。感性を磨きつづける努力はいまも怠らない。そして、これからも絵描き人生はつづく。

（完）

（文責・インタビュー： 辻智佐子）

編集後記

今治の夏祭り「おんまく」の花火大会当日、ギャラリーCHUCHUにて小野さんへのインタビューをおこないました。台風12号の影響で朝からドシヤブリ。花火大会の開催があやぶまれましたが、夕方になって曇り空となり、予定どおり開催されました。もしかして、小野さんは晴れ女！？

日本の夏の風物詩といえば花火。花火をみて何を連想するかは人それぞれですが、今治の夏の夜空に散る9千発の花火は、満点の星に近く、ときに火山の噴火口に似たエネルギーを感じました。さすが、「おんまく」の花火。この花火をみて、もう一つ連想したのがあります。ギャラリーでみた小野さんの作品です。「数」をテーマに、無数のボトルが重なり合って造形物を描いた作品。シンプルさのなかに知力、感力、想像力がみなぎった作品でした。「数」が人間の五感をくすぐる。そうです、今日みた9千発の花火とおなじです。人間の想像力が感動の創造物へと可視化された時間を、いっぱい過ごせた一日でした。（辻）



おんまくの花火



小野さんの作品

次回の「タオルびと」

「タオルびと」の11人目は、渡辺パイル織物(株)の二代目渡邊利雄氏である。日本においていま注目のタオル・メーカーのひとつであり、その舵をとる渡邊氏は日常使いのタオルの製造はもちろんであるが、パリコレに名を連ねる世界のメゾンへ生地を提供したり、異業種の人たちとタッグを組んで新しいタオルの可能性を模索したり、そのチャレンジ精神と行動力は群を抜く。従来のタオルづくりを丁寧に重ねながら、新たな境地を切り開く、そんな眼光鋭い経営者の登場である。

